

【特別支援学校用】

令和5年度学校評価 計画

学校名	唐津特別支援学校好学舎分校		
1 前年度 評価結果の概要	◇目標を達成した項目については、今後も取組を継続し維持していく。 ◇生活態度の向上に関しては、分かりやすくルールを示して粘り強く進めたい。 ◇キャリア教育及び職業教育については、児童生徒にも意識付けできるようにしたい。 ◇児童生徒の実態を把握し、適切な指導及び支援の随時見直しを行っていく。		
2 学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐくむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。		
3 本年度の重点目標	① 児童生徒の自立と社会参加を目指した教育活動の推進に努める。 ② 児童生徒のこれまでの成育歴、特性に配慮しながら、教職員が教育目標、教育活動について意思統一を図る。 ③ 分校に通う児童生徒についての指導、支援について、専門性の向上を図る。 ④ 児童心理治療施設「好学舎」や関係機関と連携し、支援体制の確立を図り、学校運営を円滑に遂行する。 ⑤ 業務および組織の見直しを常に行い、働き方改革の推進に努める。		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○授業への取り組みが向上した(理解度、授業を受ける態度など)と感じられる児童生徒70%以上 ○家庭学習の定着:課題に取り組み、提出する児童生徒70%以上 ○「個別の指導計画における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と回答する教員70%以上	・児童生徒に合わせた学習環境や学習形態などの工夫(ICT機器の効果的な活用や、活動内容・時間の調整など個別の対応を可能な範囲で実施) ・主体的に取り組みやすい課題の提供 ・自立活動に関する専門性向上に必要な校内研究及び職員研修を設定し、効果的な指導及び評価を行う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○他者との接し方を含めた生活態度が向上した児童生徒60%以上 ○自分の行動を振り返ったり、思いを適切に話せるようになったりした児童生徒60%以上 ○いじめの防止や対応等を理解し、組織的に行うことができていると回答した教員60%以上 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80% ●「児童生徒の希望や実態等に応じたキャリア教育及び職業教育ができている」と回答する施設職員50%以上	・学校生活の様々な場面で、教師が手本となる言動を示す。 ・児童生徒の思いを表出しやすくなる場の設定や関わり方を行う。 ・いじめに関する研修を年2回以上実施 ・いじめの認知・認知の観点から、児童生徒の様子を正しく見取り、教師間の情報共有を密に行う。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・個別の各種計画における本人や保護者の希望やニーズの反映 ・キャリアパスポートの活用による基盤となる能力・態度、勤労観・職業観の形成 ・中学部における進路指導の充実(職場体験、見学、高校説明会等の実施)
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ○感染症予防の徹底	○「歯の健康は大切である」と考える児童生徒80%以上 ○食後の歯磨きを行う児童生徒90%以上 ○感染症予防について、児童生徒の指導に努めたと回答する職員80%以上	・歯の健康に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・感染症予防について職員に周知、児童生徒に予防の指導をする。 ・好学舎と連携して児童生徒の健康状態を把握する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●時間外在校等時間を前年度より減らす。 ●年休14日以上取得をめざす。	・毎週金曜日を定時退勤に設定 ・学校閉庁日を5日間設定する ・会議内容の事前周知や資料の精選による会議回数や時間短縮 ・年休の取りやすい環境を醸成する
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○関係機関との連携の推進	○児童相談所や関係学校、好学舎との連携強化・内容の充実	○児童相談所との情報共有のケース会等の1回以上の開催 ○転出入時の引継ぎ会の開催90%	・好学舎との細やかな情報交換、情報共有の実施 ・児童相談所への連携強化のための啓発(ケース会開催の依頼) ・原籍校との綿密な引継ぎ

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育